



4/23 忠類小学校交通安全教室

交通ルールを楽しく学ぶ

忠類小学校で交通安全教室が開かれ、全校児童が交通ルールを学びました。1、2年生は体育館で交通ルールを学んだ後、路上コースを歩き、3～6年生は自転車の走行練習を行いました。また、交通マナーにより関心を持ってもらえるよう白バイの乗車体験も行われ、子どもたちは大興奮でした。



4/23 包括連携協定締結

地域・高校一体の教育活動を

開校3年目を迎えた幕別清陵高校とNPO法人幕別札内スポーツクラブが包括連携協定を結びました。これにより、全生徒が同クラブの会員に登録しました。部活指導で専門的指導を受けられるほか、教職員の長時間労働の解消など、学校の負担軽減が期待されます。飯田町長は、同校で開かれた締結式にオブザーバーとして参加。ますます魅力ある高校、部活動に発展していくことへの期待を語りました。



4/27 菜の館ベジタ オープン

地元の野菜などを提供

地元で採れた新鮮な野菜などの直売所「菜の館ベジタ」が今年度の営業を開始しました。開店初日は店舗前ではじゃがいもの詰め放題などのイベントが開催され、多くの人でにぎわいました。



4/26 まくべつ農村アカデミー入校式

未来の農業の担い手に

まくべつ農村アカデミーの第26期入校式が行われました。今年度の入校生は、リーダーコース4人、ニューファーマーコース7人、短期農業体験コース6人の計17人です。入校式では、入校生代表の七島大さん(リーダーコース)が「入校生は農業を始めて間もない者やこれから始める者で、まだ知識や経験が足りない。卒業後、自信をもって農業ができるよう研修に励みたい」と決意を述べました。



4/13 忠類ナウマン象記念館に油彩画寄贈

森本さん、すてきな絵をありがとう

忠類ナウマン象記念館に森本憲司さんから油彩画が寄贈され、町からお礼状をお渡ししました。森本さんは地元忠類で十勝の自然を題材に油彩画を描かれており、本年2月には、同記念館で絵画展が開催されました。今回寄贈された絵画は白鳥が羽を休めている繊細な描写の「越冬(十勝川)」というタイトルの油彩画です。



4/13 しらかば大学入学式

新たに8人が仲間入り

しらかば大学の入学式が町民会館で行われました。今年度は8人の新入生(クマゲラ校4人、ナウマン校4人)が新たな学びをスタートさせ、そのうち5人が入学式に出席しました。しらかば大学は、60歳以上の町民を対象とした学びの場で、月に2回程度活動しています。学生のみなさんは、全学生を対象とした教養科目や、軽スポーツや脳トレ、毛筆・硬筆、陶芸など、選択制の専門科目を学んでいます。



写真：札内農業協同組合にて 左から高橋秀樹代表理事組合長、幕別町消防団 八巻省三団長



写真：忠類農業協同組合にて 左から蛸原一治代表理事組合長、幕別町消防団 菅野常男副団長(当時)

消防団協力事業所の認定更新に伴う伝達式が行われました

事業所の協力を通じ、地域防災体制の充実強化を図ることを目的とした制度である「総務省消防庁消防団協力事業所表示制度」は、従業員が消防団員として相当数入団している事業所や、災害時に事業所の資機材を提供するなどの協力をしている事業所に対し、「消防団協力事業所表示証」を交付するというもので、地域に対する社会貢献を示すものです。このたび、忠類農業協同組合(平成22年度認定)、札内農業協同組合(平成28年度認定)に対し認定更新に伴う表示交付書の伝達式が行われました。

☎幕別消防署(☎54-2434)

5/20



5/12

途別小学校 伝統の早乙女姿で田植え

たくさん、たくさん、稲が実るといいね！

途別小学校の伝統行事である田植えが行われ、全校児童25人が「きたゆきもち」の苗を植えました。田植えを行う1週間前(12日)には、田んぼの土をよく混ぜてやわらかく均一にするために、板を使って「代かき」を行いました。一列に並び、田んぼに足を踏み入ると「冷たい！」「ざらざらしている」と児童ら。最後に背丈よりも長いトンボを使って土をならし、田植えの準備を終えました。田植え当日(20日)は、まず、「コロ」と呼ばれる道具で田んぼに等間隔の印を付けます。その後、何度も田植え経験のある児童らは、苗を田んぼにまっすぐ刺すようにしてどんどん植え付けていきます。ぬかるんだ部分でも、足を取られないように一歩ずつ、慎重に行いました。昨年は、高学年だけで田植えを行ったため、低学年は1・2年生ともに初めての経験でした。2年生の児童は「初めてだけど、うまくできたらいいな」とやる気満々。先生に教わりながら一生懸命行い、田植えが終わると「田植えてこんなに楽しいんだ！」という声が聞こえてきました。

5/7



ゲートボール場にベンチ設置

技能士会寄贈式

幕別技能士会からベンチを3脚寄贈していただきました。素材は雨に強いカラマツ。色は濃い茶色で、屋外で使用しても汚れが目立たないよう工夫されています。このベンチは、止若公園ゲートボール場に設置されました。プレーをしていたみなさんは、これまでビールケースなどをういた仮設ベンチを使っており、新しい丈夫なベンチの設置に歓喜の声を上げました。



5/4



「花火駅伝」

ゴールデンウィークの夜空に花火

「花火のチカラで日本中を笑顔に」を合言葉に、全国の花火師が協力して、花火を打ち上げる「花火駅伝」が忠類地域で開催されました。当日は新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、打ち上げ場所は非公開でしたが、花火を見つけた人たちは笑顔で夜空を見上げていました。



地域おこし協力隊 活動日記

春の小川



北海道にも例年より早い春が訪れました。陽気に誘われ、忠類総合支所の裏にある当縁川に沿って散策しました。みなさんの思い描く「春の小川」の土手に咲くのはどんな草花ですか？私にとっては菜の花、クサフジ、タンポポやムスカリです。一方、当縁川の土手には、成長したフキノトウとタンポポ、そしてエゾエンゴサクが見られました。青から淡い紫へのグラデーションと鈴を重ねたような可憐な花のかたち。初めて見た瞬間からエゾエンゴサクが大好きになりました。春の到来をひそやかに、けれども足元でしっかりと謳歌しているように感じられます。北海道は今後ますます自然が美しくなる季節。これからこの地でどんな新しい出会いがあるのだろうと期待に胸が高鳴ります。

ゆり根料理にチャレンジ

先日、地域の方に特産のゆり根をいただきました。初めて手にするゆり根は、想像していたよりもずっしりと重く立派でした。ゆり根は畑で植え付けしてから収穫までに5～6年かかるとのこと。期間だけでなく栽培にも非常に手間がかかり、生産者の方々が丹精を込めて育てていることがよく分かりました。下ごしらえや調理方法について調べ、初めてのゆり根料理は「炒め物」と「炊き込みご飯」に決めました。炒め物ではサクサクした歯ざわり、炊き込みご飯ではほのかな甘みとホクホク感を楽しむことができました。ゆり根の優しい味と変幻自在の食感とはどんな料理とも相性が良さそうです。地域自慢の「忠類ゆり根」、さらに多くの方に知って食べていただきたいと思いました。



▲「炊き込みご飯と炒め物」

著：本藤 絵理子（ほんどう えりこ）
令和3年4月1日より地域おこし協力隊として着任。岡山県出身。



Twitter



facebook



instagram

5/18



創業70周年、節目の年

幕別興業から100万円の寄附

創業70周年を迎えた幕別興業から、町に100万円の寄附をいただきました。受納式では、代表取締役の平井清裕さんが飯田町長に寄附金を手渡しました。飯田町長は、幕別興業のこれまでの社会貢献に感謝の意を伝えるとともに、「貴重な財源として大切に使用させていただきます。80年、90年、100年と更なる発展を期待しています」と述べました。平井清裕さんは、「長く続けてこられたのは、地域やお客さまのおかげ。100年を目指して頑張りたい」と意気込みを語りました。

5/16



町長杯パークゴルフ大会

ちろっとの森に快音響く

ちろっとの森東コース・西コースで、第10回町長杯幕別町民パークゴルフ大会が開かれました。参加者は64人で、飯田町長、菅野教育長も参加しました。今回の大会は、マスク着用うえで参加者同士の間隔を十分に空けるなど、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策をとりながら実施されました。朝の空模様は、あいにくの曇り。しかし、参加したみなさんは曇天を物ともせず、ちろっとの森に快音を響かせて、力強くプレーをしました。